

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	刈谷市第一学校給食センター建設工事	階数	地上2F
建設地	愛知県刈谷市小垣江町白沢36	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,160時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2016年6月22日
敷地面積	32,753 m ²	作成者	(株)加藤建築事務所
建築面積	3,224 m ²	確認日	2016年6月23日
延床面積	4,455 m ²	確認者	加藤 知徳



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>10.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.2 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.2 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>檜台形集成材 (カウンターに使用)</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境								3.2
1 音環境								3.3
1.1 騒音					3.3	0.15	-	-
1.2 遮音					3.0	0.40	-	-
1 開口部遮音性能					3.8	0.40	-	-
2 界壁遮音性能				事務室(1):Dr-45	3.0	0.60	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					5.0	0.40	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	-	-
1.3 吸音					3.0	-	-	-
					3.0	0.20	-	-
2 温熱環境								2.6
2.1 室温制御					2.6	0.35	-	-
1 室温					3.0	0.50	-	-
2 外皮性能					3.0	0.38	-	-
3 ゾーン別制御性					3.0	0.25	-	-
2.2 湿度制御					3.0	0.38	-	-
2.3 空調方式					1.0	0.20	-	-
					3.0	0.30	-	-
3 光・視環境								3.5
3.1 昼光利用					3.5	0.25	-	-
1 昼光率				事務室(1):3.28%	4.2	0.30	-	-
2 方位別開口					5.0	0.60	-	-
3 昼光利用設備					3.0	0.40	-	-
3.2 グレア対策					3.0	0.30	-	-
1 昼光制御					3.0	1.00	-	-
3.3 照度				事務室(1):750lx	4.0	0.15	-	-
3.4 照明制御					3.0	0.25	-	-
					3.0	0.25	-	-
4 空気質環境								3.9
4.1 発生源対策					3.9	0.25	-	-
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆建材を全面的に使用	4.0	0.50	-	-
2 アスベスト対策					4.0	1.00	-	-
4.2 換気					3.0	0.30	-	-
1 換気量				事務室(1):1/15以上	3.0	0.33	-	-
2 自然換気性能					5.0	0.33	-	-
3 取り入れ外気への配慮					1.0	0.33	-	-
4.3 運用管理					5.0	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視					-	-	-	-
2 喫煙の制御				全館禁煙	5.0	1.00	-	-
					-	-	-	-
Q2 サービス性能								3.3
1 機能性								3.2
1.1 機能性・使いやすさ					3.2	0.40	-	-
1 広さ・収納性					3.0	0.40	-	-
2 高度情報通信設備対応					5.0	0.33	-	-
3 バリアフリー計画				独自	1.0	0.33	-	-
1.2 心理性・快適性					3.0	0.33	-	-
1 広さ感・景観					2.6	0.30	-	-
2 リフレッシュスペース				リフレッシュスペースとして和室を計画	3.0	0.33	-	-
3 内装計画					4.0	0.33	-	-
1.3 維持管理					1.0	0.33	-	-
1 維持管理に配慮した設計				便所に清掃しやすい内装材を採用、ビニル巾木の採用 等	4.0	0.30	-	-
2 維持管理用機能の確保				掃除流しを設置、廃棄物スペースを確保 等	4.0	0.50	-	-
3 衛生管理業務					4.0	0.50	-	-
					-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								3.0
2.1 耐震・免震					3.0	0.31	-	-
1 耐震性					3.0	0.48	-	-
2 免震・制振性能					3.0	0.80	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.20	-	-
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.33	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				②	3.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					2.0	0.23	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.09	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水:塩ビライニング鋼管(B)、給湯:SUS管(C)、排水:塩ビ管(B)	3.0	0.08	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					5.0	0.15	-	-
					3.0	0.23	-	-
2.4 信頼性					3.2	0.19	-	-
1 空調・換気設備					3.0	0.20	-	-
2 給排水・衛生設備					3.0	0.20	-	-
3 電気設備					3.0	0.20	-	-
4 機械・配管支持方法				耐震クラスA	4.0	0.20	-	-
5 通信・情報設備					3.0	0.20	-	-
					-	-	-	-
3 対応性・更新性								3.9
3.1 空間のゆとり					3.9	0.29	-	-
1 階高のゆとり				1F階高4.8m	4.6	0.31	-	-
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率0.105	5.0	0.60	-	-
3.2 荷重のゆとり				3.900N/m ²	4.0	0.40	-	-
3.3 設備の更新性					4.0	0.31	-	-
1 空調配管の更新性					3.4	0.38	-	-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17	-	-
3 電気配線の更新性				ケーブルラック及び保護配管による配線	3.0	0.17	-	-
4 通信配線の更新性				保護配管による配線	5.0	0.11	-	-
5 設備機器の更新性					5.0	0.11	-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22	-	-
					3.0	0.22	-	-

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.5	0.30	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				4.0	0.50	-	-	
				1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPlm=0.74		4.0	0.08	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.26	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIm=0.75		4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				2.0	0.27	-	-	2.0
4.1 モニタリング				2.0	1.00	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				1.0	0.50	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水		自動水栓・泡沫水栓や節水型便器などを採用		3.4	0.15	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.0	0.40	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				3.3	0.63	-	-	3.3
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.24	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	断熱材・屋根		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.20	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	乾式工法のため分別が容易であり設備との錯綜はない、OAフロ		2.0	0.05	-	-	
				5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.3	0.22	-	-	3.3
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32	-	-	
1 消火剤				3.5	0.68	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ノンフロン断熱材を採用		-	-	-	-	
3 冷媒				4.0	0.50	-	-	
				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:85%		3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止				2.8	0.33	-	-	2.8
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.50	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			2.5	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								
1 騒音	独自			3.1	0.33	-	-	3.1
2 振動	独自			3.0	0.40	-	-	
3 悪臭				3.0	1.00	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
1 風害の抑制				-	-	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	0.40	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.70	-	-	
3.3 光害の抑制								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.30	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		光害チェックリストを一部満たす、広告物照明がない		3.7	0.20	-	-	
				4.0	0.70	-	-	
				3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

刈谷市第一学校給食センター建設工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:10.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	3.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	檜台形集成材(カウンターに使用)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 刈谷市第一学校給食センター

計画上の配慮事項	
総合	安全で衛生的施設とするためHACCPの導入、TT管理の徹底、衛生区画を明確にした改革としています。又、働く調理作業者にとっても、効率的、衛生的、快適な作業環境としました。また特別支援学校を併設するため、特別食に対応できる体制を整えています。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆建材を全面的に採用や全館禁煙化など、空気質環境に配慮した計画としています。
Q2 サービス性能	建物の階高、空間の形状・自由さにゆとりをもたせ、対応性・更新性に配慮した計画としています。
Q3 室外環境(敷地内)	屋外照明を設置などにより、建物外部の防犯性に配慮した計画としています。
LR1 エネルギー	外皮の断熱強化により、建物の熱負荷抑制に配慮した計画としています。また、LED照明の採用等により、エネルギー消費量の削減に配慮した計画としています。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓・泡沫水栓や節水型便器などを採用し、水資源保護に配慮した計画としています。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮した計画としています。
その他	—